

令和5年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧（1／2）

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						目的	実施状況／実施内容等		課題と今後の対応
		1 市民活動の窓口、相談、支援機能	2 情報収集・提供・発信機能	3 交流・ネットワーク機能	4 活動拠点及び事務所機能	5 市民活動に関する学習・研修機能	6 マッチングと協働支援の機能				
1	利用者会議		○	○	◎			利用者との意見交換の場をつくり、より使いやすいセンターを目指す。	第1回：5月10日／5月14日 （参加者：14団体16名） 第2回：8月19日／8月23日 （参加者：22団体23名） 第3回：11月4日／11月9日 （参加者：7団体8名） 第4回：2月13日／2月17日 （参加者：17団体19名）	センターからの事業説明に加え、6月から利用制限が解除された交流ミーティングスペースの使用方法をテーマとして参加者全員で意見を述べ合った。グループディスカッションの形をとることによって、参加団体間での交流を図る事を意識した。	【課題】 ・参加団体（参加者）が固定されている。 【今後の対応】 ・新規登録団体への参加を呼びかけていく。 ・開催日時の工夫やオンラインの活用にも取り組む。
2	協働を促す企画			○			◎	市民活動団体、企業、自治会などとの相互を促し協働のまちづくりを推進する。	1. 【団体間協働】「ぽぽらフェスティバル2023 実行委員会」 ・ぽぽらフェスティバル実施までに臨時会議も含めて1 2 回実行委員会を開催 2. 春日部SDG s フォーラムへの参加、まちかどライブラリー実施 3. 【企業と市民活動団体】 「ひろがるつながる社会貢献ワークショップ（9/22）」 ・21企業と27団体、66名が参加して企業とNPO法人等でワークショップを実施。 ・企業とNPO・市民活動団体がつながるきっかけとなり参加者から高評価を頂いた。 実施後に19の新たなつながりが生まれた。 4. 【自治会との協働】 「藤が丘自治会リニューアルプロジェクト」 ・自治会会長と有志で構成する会議に継続的にアドバイザーが参加、若い世代の巻き込みと市民活動団体との協働を検討した。 5. 【市内の企業・活動団体との連携】「キッズイングリッシュ スピーチコンテスト」 ・キッズイングリッシュスピーチコンテストに共催として参画。 事前ワークショップは開催したが本番は延期となった。（2024/5/11に実施）		【課題】 ・地域で活動する市民活動団体や企業、自治会、教育機関等、多様な主体同士の接点をつくることを意識した事業を展開したが、継続的な仕組みになっていない。 【今後の対応】 ・きっかけをつくった後のフォローアップも必要に応じて対応し一部事業の継続実施も視野に入れていく。
3	市民団体交流会			◎			○	登録団体がお互いを知り、連携する場や機会を提供。	・ぽぽらフェスティバルで、ガチャガチャトーク・カーレット大会を実施。 ・ゲーム要素を盛り込むことで参加団体同士が自然と会話できるように工夫した。 ・26団体、26名参加（4回実施）		【課題】 ・団体間の交流を深める事を目的とし、事前に各団体に参加回を割り振ることで参加を促進したが、ぽぽらフェスティバルの来場者対応のため不参加の団体も有った。 【今後の対応】 ・ぽぽらフェスティバルと別日での開催も含めて来期更なる工夫の検討する。
4	市民活動講座	○	○			◎		情報発信／団体運営SDG s 推進など市民活動に役立つ各種講座を開講し市民活動の活性化につなげる。	コロナ禍を経て活動を再開する団体が多くなったため、あらためて情報発信や新しい仲間を増やすために役立つ内容を年間のテーマとして実施した。 ・6月7日／11日（2回開催） 『新ホームページ活用講座』（参加者：17名） ・9月9日 『新たな仲間を巻き込み強くあたたかい組織をつくる方法』（参加者：23名） ・1月27日 『シニアの居場所づくりとICT活用』（参加者：18名） ・2月25日 まちづくりシンポジウム『私が住みたい春日部』（参加者：27名）		【課題】 ・参加された方々には満足して頂けているが、もっと多くの方々に参加して頂きたい。 【今後の対応】 ・より多くの団体・参加者に参加してもらえるように、今以上に告知活動に力を入れていく。今後も広報かすかべやSNS等を活用し広報活動を強化する。
5	利用者アンケート				◎			センターへの評価や意見を収集するための書面アンケートを実施し公平透明な施設の運営を目指す。	令和5年度上期アンケート（2023年8月18日～9月17日） 【回答数：292件（紙回答239、Web回答53）】 令和5年度下期アンケート（2024年1月22日～2月21日） 【回答数：216件（紙回答143、Web回答73）】		【課題】 ・施設及び職員に関しての設問は継続して高い満足度を頂いているが、講座・イベントに関する設問で未記入の回答が多い傾向は変わらない。特に登録団体以外の利用者（大部分が交流ミーティングスペースを勉強場所として利用している10代の利用者）に未記入が目立った。 【今後の対応】 ・登録団体以外の利用者にも事業の案内等を積極的に実施していく。
6	相談事業	◎	○	○				アドバイザーを2名配置し、市民活動に関する様々な相談に対応、課題解決につなげる。	年間を通して、様々な相談に随時対応を継続して実施。 【2023年度の相談対応件数：117件】 相談内容は活動の始め方、地域で活動する団体の紹介や仲介、情報発信の方法などについてが多い。（※開館時間や利用方法等の一般的な問い合わせは除く）		【課題】 ・随時、様々な相談に対応可能な事があまり知られていない状況が有る。 【今後の対応】 ・相談事業の案内チラシを配架、ぽぽらのホームページのイベント情報にも記事として「無料相談日のご案内」を掲載した。案内は今後継続的に実施予定。

令和5年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧（2／2）

No	事業名	1	2	3	4	5	6	目的	実施状況／実施内容等		課題と今後の対応策
		市民活動の窓口、相談、支援機能	情報収集・提供・発信機能	交流・ネットワーク機能	活動拠点及び事務所機能	市民活動に関する学習・研修機能	マッチングと協働支援の機能				
7	運営パートナー制度	○			◎		○	利用者ニーズに合わせた運営パートナー業務の拡充と運営に協力してくれる市民の発掘。	印刷パートナー、ぽぽらだより編集パートナー、イベントパートナーに分かれて活動継続 ・印刷パートナー：毎週水曜日、土曜日の印刷室利用者支援 ・編集パートナー：ぽぽらだよりの取材および記事作成、写真撮影等 ・イベントパートナー：利用者会議や市民活動講座の受付、ぽぽらフェスティバルのサポート対応 運営パートナー全体としての会合を予定通り年2回実施した。（7月26日/1月31日） （※2023年度登録運営パートナー：14）		【課題】 ・現状の活動を継続すると同時に、新たに協力して頂ける方々を増やして行く事も重要と考える。 【今後の対応】 ・折り紙展示やバルーン展示等で館内の装飾に協力頂いていた2名の方を新しく運営パートナーとして登録。運営パートナーの活動の様子を発信してゆくことで制度の認知も高めていく。
8	周年記念イベント「ぽぽらフェスティバル」	◎		○		○		12周年記念イベントを今年も実行委員会形式で開催し、幅広い世代の参加を促し、市民活動を推進する。	12月3日、4日の二日間にわたり、登録団体主体の各種イベントを実施。46団体が参加した。（59イベント）※参考：2日間来館者数 3,875名 フェスティバルの告知イベント、新たな取り組みとして11月25日にララガーデン春日部の野外ステージを活用してプレイイベントを実施した。		【課題】 ・3年ぶりに規制無しで集客して実施し、1階多目的ホールも活用した事により、盛り上がりのあるフェスティバルが実施出来たが、もっと多くの市民に見に来て頂けるように更なる工夫が必要との意見もあった。 【今後の対応】 ・広く市民に周知するため、来年はちらしの配布を広く行い、のぼり旗を設置する等、PR活動にもっと注力してゆく。
9	月間イベント	○	○			◎		パネル展示や会議室を活用したイベントを月間イベントとして推進し市民活動を支援する。	4月：春日部C工房 5月：タマムシの会 6月：ヒッポファミリークラブ 7月：カーレット春日部 8月：粕壁写真クラブ 9月：経営革新塾しよう会 10月：春日部C工房 11月：彩の国環境大学修了生の会 community For Z Line 2月：くーみん 埼玉中小企業家同友会東部支部 S-netサポーターズ	色々な活動団体に積極的に案内する事で、月間イベントが周知され、月間イベント活用団体が増加した。昨年度は年間で4イベントでしたが、今年は12イベントを実施した。	【課題】 ・制度を活用する団体はふえたが、まだまだ一部の団体しか活用していない。 【今後の対応】 ・月間イベントの利用規約に曖昧な部分が有った為、同一団体の年会利用回数等を明確に記載し再度各団体に案内した。 ・活動支援として登録団体に更に積極的にぽぽらを活用して頂けるように案内を継続し利用促進に注力してゆく。
10	情報発信	○	◎			○		継続的に情報を発信し、市民活動を広める活動を継続する。	・ぽぽらだより：4回／年発行（春号・夏号・秋号・冬号） ・facebook・X（旧Twitter）を活用し情報発信を継続的に実施 ・5月16日にホームページをリニューアル、使い方講座を実施、分かり易い使用方法説明書を作成する等で更なる利用促進を図っている。 ・6月からメールマガジンの配信を開始した。（購読者：73名、令和6年3月末時点）		【課題】 ・交流ミーティングスペースの利用制限が解除され、登録団体以外の方の来館（学生の来館）が増加しているが、市民活動には余り興味を持って頂けていない状況が有る。メールマガジンの購読登録者も依然として少ない状況である。 【今後の対応】 ・積極的にSNSやホームページなどで施設の使い方や市民活動に関する情報を継続的に配信していく。市民活動講座他、色々な場面でメールマガジンの購読者を募っていく。
11	モヤモヤカフェ	○		◎				身近で活動している市民をゲストに招き、ゆるやかな対話を通じて、地域の課題や活動に関心を向けてもらう。また、さまざまな形で活動する市民との出会いの場を提供する。	4月1日：出張モヤモヤカフェ（桜咲くかすかべ） 7月23日：つきぐるみ小島加奈子さん、紅雲堂書店石川貴雄さん 11月18日：NPO法人スコップ松永乃吏子さん、NPO法人earth tree加藤由紀子 1月20日：藤が丘自治会会長田辺晴彦さん、春日部ファミリー新聞大川原道之さん 2月25日：ゼロウエイスト心捺さん、野村美里さん 3月31日：鹿沼英雄さん、小山香織さん		【課題】 ・ゲストのお友達を紹介してもらいながら開催していたが、毎回ゲストの調整が難しくなっている。施設の外で活動しているさまざまな市民との接点づくりが課題となっている。 【今後の対応】 ・各所で活動しているさまざまな方に声掛けし接点を広げていく。
12	フィールドリサーチ団体訪問		○				◎	団体が活動する現場を訪問し、ヒアリングを通じて、センター運営や市民活動支援のニーズを把握する。	6月7日：NPO法人つきぐるみ訪問 7月30日：藤が丘自治会訪問 9月30日：赤沼香取神社（赤沼獅子舞） 10月31日：あんど暮らし訪問 2月28日：NPO法人スコップ訪問		・ヒアリング内容をスタッフ間で共有し、活動団体への理解や支援ニーズの把握に努めている。他の活動団体にとっても参考となる情報については、ぽぽらだよりやホームページで情報発信していく。